



西区を豊かに

2012年
7月1日発行
第2号

発行者
新潟市西区自治協議会 会長 岡本 松男
事務局
〒950-2097
新潟市西区寺尾東3丁目14番41号 西区地域課内
TEL:025-264-7161 FAX:025-269-1650
E-mail:chiki.w@city.niigata.lg.jp

西区の産物をたくさん詰め込んだロゴマークです。
新潟スイカ、赤飯入根、黒地茶豆、佐渡の白鳥。
その上に日本海に沈む夕日と大学を表す博士帽を
乗せてみました。(若井)

若者を地域と共に育む
法人「ヘローズファーム」



連絡先
〒950-2112
新潟市西区内野町431番地2(内野駅前)
TEL 025-201-7082
✉ info@herosfarm.net

広報紙第1号への意見・感想

3月1日に発行した「西区を豊かに」第1号について、区民の皆さんから沢山のご意見・感想を頂きました。主な内容は次のとおりです。

- ◆「イベント」が「西区」の名産品がわかる「ロゴマーク」がよいと感じました。
- ◆西区自治協議会が何をやるのか、か、はじめてわかりました。
- ◆これまでの成果や具体的な活動内容について、もっと詳しく知りたい。
- ◆20代・40代の読者を増やすため、ネット配信なども検討してほしい。
- ◆町内の除雪に苦勞をしてるので第2部会の活動にたいへん関心がある。

区民の皆さんと共につくる西区自治協議会広報紙にご意見をお寄せください。

募集

広報紙や自治協議会活動についての意見

●送付先：住所・氏名・連絡先をお書き添えの上、広報紙1面の「事務局」あてに送付を。郵送または電子メールにてお願いします。

とっておきの私の一枚

●あなたの「自慢の写真」(家族・ペット・風景・イベント等に住所・氏名・氏名は必須、ペンネームがあればペンネーム掲載・連絡先・写真タイトル・一言コメントを添えて応募ください。電子メール可) ●採用者には千円の図書カードを贈呈 ●応募された写真は返却しません ●締め切り8月末日(次号掲載予定) ●送付先/広報紙1面の「事務局」あて

編集後記

第1号を読んでもくださった皆さん、ご意見をくださった皆さん、ありがとうございました。第1号から4カ月、何とか第2号を発行することができました。今頃は、載せてほしい、伝えたいことがたくさんありすぎて大変でしたが、何とか4ページにまとめました。防災や佐渡に対する自治協の取り組みが皆さんに伝われば幸いです。(若井)

とっておきの私の一枚



「弥彦山から」

ペンネーム ●「ハンバー」さん
コメント ●澄みきった空の下、佐渡の姿がとっても美しく、すばらしいと思いました。

安心のまちづくりのために 自治協が「防災に係る課題」を検討

昨年3月11日の東日本大震災の経験が住民の「まちの防災」意識を高めています。この1年、西区自治協では「地域防災に関するアンケート」を実施(平成23年10月・12月、29自治会、西区内自治会数は316)から回収。このアンケート結果を踏まえ、自治会・町内会単独での防災組織化を課題として検討を続けてきました。3月に「防災に係る課題」への対応に関する方針をまとめ、防災体制の見直しを進めてもらいます。各「町内会」・「三丁目」協議会、自治会に送付しました。

1 地域防災に関するアンケート結果(概要)

「自治会に「防災組織」がありますか」
自治会単独での結成80自治会(27%)、連合組織加入のみ134自治会(40%)、未結成が81自治会(27%)でした。自治会単独で結成できない理由として「役員交代で継続的な活動が困難」(45%)、「住民の関心が低い」(39%)、「担い手がいない」(38%)が上位にあがっています。

「行っていい理由として」住民の関心が低い(42%)、連合組織や「協」単位で行っている(40%)、担い手がいない(33%)が上位にあがっています。

自治会で防災活動をする定期的に行っていますか

「はい」が80自治会(31%)、「行っていない」が170自治会(67%)でした。



最寄りの新潟市指定避難場所を知っていますか

「知っています」200自治会(91%)、「知りません」27自治会(9%)でした。「災害時に避難場所へ避難する際の課題」には「津波や洪水で避難場所が被害を受けそうである心配」(42%)、「場所が遠い」(38%)、「住民が場所を知らない」(16%)が上位にあがっています。

1 自治協が検討した「3つの課題」にその対応方針

【課題1】自主防災組織のあり方の検討

自治会独自や連合組織で地域に合った組織化を進める。なかでも、自治会・町内会単独での組織化を進める。

【課題2】避難所の見直しと適正化の検討

地域独自の一時避難場所や津波避難ビルの設定で、全ての地域で安全・迅速な避難ができる体制を構築する。

【課題3】防災意識の啓発の検討

小中学生への防災教育や地域防災の担い手の育成で、地域の防災活動の活性化を図る。

1 自治会での具体化を

第一部会では昨年1年間、防災の3つの課題解決に向け、議論を交わしてきました。特に昨年3月の東日本大震災を踏まえ、改めて地域の人のつながりの大切さが認識される中で、各地域自治会での防災

佐潟の湖水再生に向けて 自治協が市に要望書

西区自治協は赤塚にある佐潟(平成8年にラムサール条約に登録、市も平成12年度に佐潟周辺自然環境保全計画を策定)の再生に向けて要望書をまとめ、3月に市に提出しました。



佐潟とは

国内最大の「砂丘湖」と言われ、上潟・下潟の大小2つの潟からなる淡水湖で面積は43.6ha。水源は周辺砂丘地からの湧水と雨水で涵養されている。117科634種の植物、207種の鳥類が記録され、近年では2万羽のコハクチョウ、マガモが訪れる。



新沼市長 篠田 昭 様

西区自治協議会
会長 岡本 松男

佐潟湖水再生の取り組みに関する要望書(概要)

佐潟は昭和前期まで農業用水地や淡水魚の良好な漁場として、また周辺は水田として地域住民に利用されてきましたが、1960年代の高度経済成長期から地域住民との関わりが低下して水質の悪化が進みました。このまま推移すれば全体がコン原となり、貴重な湖沼植物や淡水魚も消滅し、渡り鳥の楽園も今は昔の物語となる危険性があります。佐潟湖水再生について以下の事項を要望いたします。

記

1. 西区、そして市の宝である佐潟を再生していくために、昔のように人の手を一定程度入れながら、佐潟が埋まってしまわないよう、地域と共にしっかりと守り育て、子どもたちの世代に残していただきたい。
2. 保全計画にもあるラムサール条約の基本理念(「湿地を持続的に利用していく」賢明な利用(ワイズユース)」と「(湿地の生態系の保全)の両輪をより一層具体化し、地域の元気が出る賢明な利用、或いは地域の汗が生かされる保全活動など、地域との協働により、愛され、親しまれる佐潟に導いていただきたい。

佐潟と歩む赤塚の会 代表 涌井 晴之

「要望書」に寄せての談話

西区自治協の「要望書」を確認し、大変心強く思っています。コハクチョウの飛来地として、希少な水生植物の湖沼として佐潟を「西区の宝」と表現する人がいます。佐潟が潟として存続するためにも

ヨシ原の問題、水質改善、へ下口排出のための水門の改修は喫緊の課題であり、地域及び市民の力を結集し、行政と連携した佐潟湖水再生に取り組みたいと考えています。

若井 山中の「山」がききたい!

モットーは「誠実にあれ」

今回は4月に赴任した新沼区長の泉和久さんから、西区への想い、プライベートにまで話を聞きました。



泉 和久 区長

【山中×泉】区長は五泉市で57歳。昭和60年に五十嵐中島に居を移し、現在は浦山在住。前新沼市環境部長。最近動行していることは妻との散歩。

区長は「区」の代表?

【中】区長は、普段はどのようなお仕事をされているのですか?

泉：まだ区長になってこの月ですが、「こにこ」へ「挨拶」をする機会が多いですね。その時に「区長」の代表として見られることが多いのですが、少しおこがましいなと感じることもあります。

それは、私が選挙で選ばれた

区長の見える「区」の姿

【中】：西区は、自然が豊かで、高度な学術機関もあって、かなり恵まれた土地ですね。

泉：そうですね。課題もたくさんあります。一つは高齢化の問題。西区は新潟市の中でも急激に高齢化が進んでいるんです。それから、浸水の問題と除排雪の問題。この二つは長年言われていた課題なので、

自治協は熱い人たちの集まり

【中】：これら問題について、西区自治協でも盛んに議論されています。区長さんから見ると、西区自治協はどのような印象ですか?

泉：西区自治協の「山」は、全体を底上げするために真面目に取り組める「熱い人たちが集まって議論している」といえます。自ずと良い結果が出てくるものと期待しています。



お気に入りの夕日スポットを語る区長

【中】：区長は、普段はどのようなお仕事をされているのですか?

泉：まだ区長になってこの月ですが、「こにこ」へ「挨拶」をする機会が多いですね。その時に「区長」の代表として見られることが多いのですが、少しおこがましいなと感じることもあります。

それは、私が選挙で選ばれた

西区自治協議会 委員名簿

平成24年6月現在
(順不同・敬称略)
○：会長 ●：副会長

岡本 松男	内野コミュニティ協議会 会長
猪爪 衛	西内野コミュニティ協議会 会長
真嶋 民雄	コミュニティ中野小屋 会長
石黒 伸夫	コミュニティ佐潟 会長
〇 梶原 宣教	坂井輪中学校区コミュニティ協議会 副会長
福島 富	坂井輪小・小新中学校区まちづくり協議会 副会長
小柳 武	東青山小学校区コミュニティ協議会 会長
寺山 和雄	五十嵐小学校区コミュニティ協議会 事務局長
根本 修一	真砂小学校区コミュニティ協議会 副会長
佐藤 孝	青山小学校区コミュニティ協議会 副会長
波多 雄一	小針小学校区コミュニティ協議会 会長
江端 直樹	黒埼南ふれあい協議会 会長
山崎 米治	大野校区ふれあい協議会 理事
嶋海 文文	立仏校区ふれあい協議会 会長
川合 敏秋	山田校区ふれあい協議会 理事
斎藤 敏夫	佐潟と歩む赤塚の会 会員
〇 新保まり子	子育て応援施設「ドリームハウス」代表
佐藤 正子	西区民生委員児童委員会長連絡会 委員
西條和佳子	特定非営利活動法人「キング・ウィメンズ・アソシエーション」事務局長
松井 賢二	新潟大学 教育学部 教育科学講座 教授
若井 千恵	新潟大学 人文学部 学生 ボランティア 代表
吉田 博	新潟国際情報大学 情報文化学部情報システム学科 准教授
山中 智成	新潟国際情報大学 情報文化学部情報システム学科 学生
高橋 整	西区PTA連絡協議会 理事
錦 恵美子	新潟大学教育学部非常勤講師
石丸 幸子	公募委員
近藤 武雄	公募委員
許山 省三	公募委員
山本 安光	公募委員
青木 葉子	越後中央農業協同組合 女性部黒埼支部長
石田 長光	西区社会福祉協議会 理事

・今後の協議会日程：7月31日(火) / 8月31日(金) / 9月26日(水)
いづれも午後3時30分～の予定

・自治協議会は傍聴することができます。

・議事録や資料は、西区の区政情報コーナーやホームページでご覧になれます。

災害廃棄物の受け入れ検討に係る「小委員会」を設置

新潟市は東日本大震災で発生した廃棄物の受け入れを表明しましたが、新潟市の担当部局から、市の考え方について3月と4月の西区自治協で説明を受けました。

その説明で西区内の焼却、埋立施設が候補となっていることが明らかになりました。このため当初自治協としてもこれに対応する必要性について共通認識し、小委員会を設置することになりました。

5月28日に13名の自治協委員が構成される第1回の小委員会が開催され、今後の取り組みが決まりました。その内容は「当面は市の施設周辺自治会への説明会を待つ」、その後「コミュニティ協議会から課題提起があった場合に小委員会や自治協議会へ対応すること」としました。

また、必要性があると認められた場合に、区民への判断材料の提供や担当部局からの聞き取りなどの対応をきめ、小委員会を開催することとしました。

8月第1日曜日は(今年は8月5日) 西区一斉クリーンデー!

西区自治協では平成21年から、区民の一体感の醸成と環境美化意識の向上のために、清掃活動への参加を呼びかけています。今年は8月5日午前7時から行う予定です。

※日時は各コミュニティ協議会により異なる場合があります



昨年のクリーンデー

うちのコミュニティ

真砂小学校区コミュニティ協議会

まさご体験教室「たおげ大」は、(こし)6月9日実施で3年目を迎え、毎年130人以上の参加がありました。この制作や、たおげを染むことはもちろん、子どもたちにとっての安心安全なまちづくり、健全育成を進めることのできる第一歩として、子どもたちと地域の方々とのふれあいの場、「子」も「た」に関心をもつきっかけの場となつてほしいとの願いも込めて開催しています。

更にこし「こま回し大会」も予定され、一層「子」も「た」も



(本多 深明)